



アイ・ラーニングのDXへの取り組み

2024年度版

アイ・ラーニングのDXビジョン

人材育成の未来への架け橋に

行動変容

を促す人材づくり
「自ら学び、考え、行動する」

People

豊富な教育メニューと
目的に適した

学びのスタイル

Learning
Methods

経営戦略と連動した

人材開発プログラム

の設計力

Organization

DXの成功を決めるのは「人」

1990年の創設より、学びへの普遍的な情熱を持ち続け、社会や企業の未来を切り拓くための人材育成パートナーとして、当社は進化を続けています。

デジタル技術を取り入れ、新たな付加価値を生み出すことに挑戦するDXは、ビジネス環境の変化が著しい現代で企業が持続的に成長する上で、ますます重要になっています。アイ・ラーニングは、こうしたお客様の取り組みを人材育成を通して強力にご支援します。

情報処理技術の活用の方向性

・情報処理技術の活用の方向性

当社は、社会や企業の未来を切り拓く人材育成パートナーとして、デジタル技術を活用した新たな付加価値の創出に取り組めます。変化の激しいビジネス環境に対応すべく、オンライン学習、LMS（学習管理システム）、データ活用型育成プログラムなどを強化し、顧客企業のDX推進を人材面から支援するビジネスモデルへと進化を図ります。デジタルと人を融合した学びの提供を通じ、顧客の持続的成長に貢献してまいります。

【具体例】

・リアルタイムチャット機能

学習者と講師が即座にコミュニケーションを取れるチャット機能を提供し、質問やフィードバックを迅速に行える環境を整えます。

・ビデオ会議システム

オンラインでの講義やディスカッションを可能にするビデオ会議システムを導入し、対面に近い学習体験を提供します。

・共同編集ツール

ドキュメントやプロジェクトを複数の学習者が同時に編集できるツールを提供し、共同作業を通じて知識を深めます。

・タスク管理機能

学習者が個々のタスクやプロジェクトの進捗を管理できる機能を提供し、効率的な学習を支援します。

当社のDXの取り組み

3つの重点分野で、デジタル変革の実現を推進していきます

1. お客様のDX人材育成を支援

- 価値創造や変革推進を行う能力と、デジタルリテラシーを高め組織を強化する能力の両面に着目した人材育成を提供
- DX推進スキル標準(DSS-P)に自社コースの対応付けや、Di-Lite 対応コースの提供

2. データに基づいた意思決定

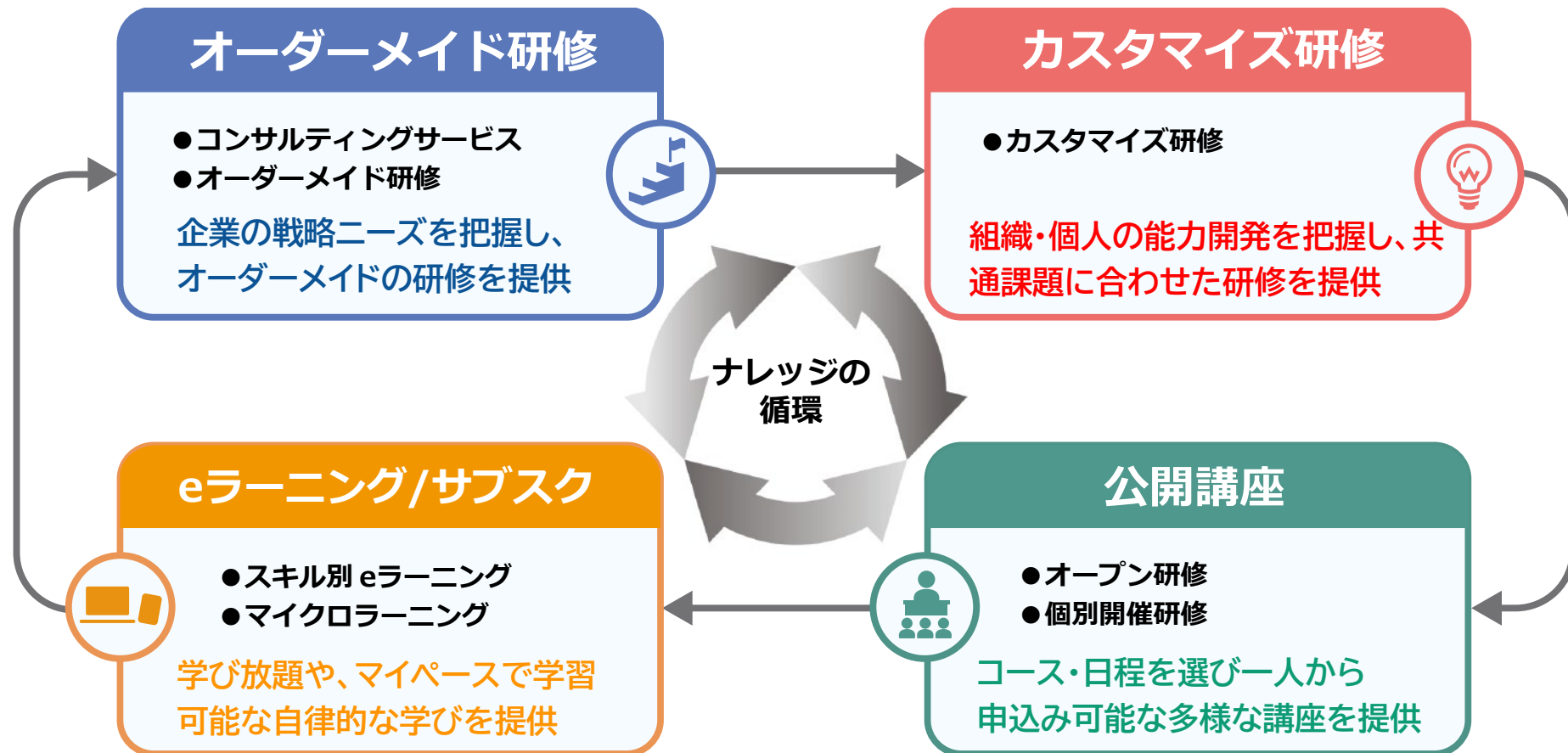
- CRMを活用した営業プロセスの見える化、標準化
- デジタルマーケティングによる見込み客の発掘、コミュニティ形成
- KPIを追跡し、進捗確認、課題認識、解決に向けたリソース投資や優先度付け

3. 社内の業務改革

- 業務効率化のためのクラウドサービス導入・運用
- 社員個人が持つ暗黙知を形式知に変換し、全社員で共有
- 管理会計データ、財務データなどをシステムで見える化

例：ナレッジの循環により社内DXを加速

お客様の人材戦略と育成ゴールに応じて、豊富な標準カリキュラムとの適合度を確認し、オーダーメイドから公開クラスまで、**4つの研修スタイル**から最適な方法をご提案。**特別感**と**迅速性**、どちらにも対応可能。

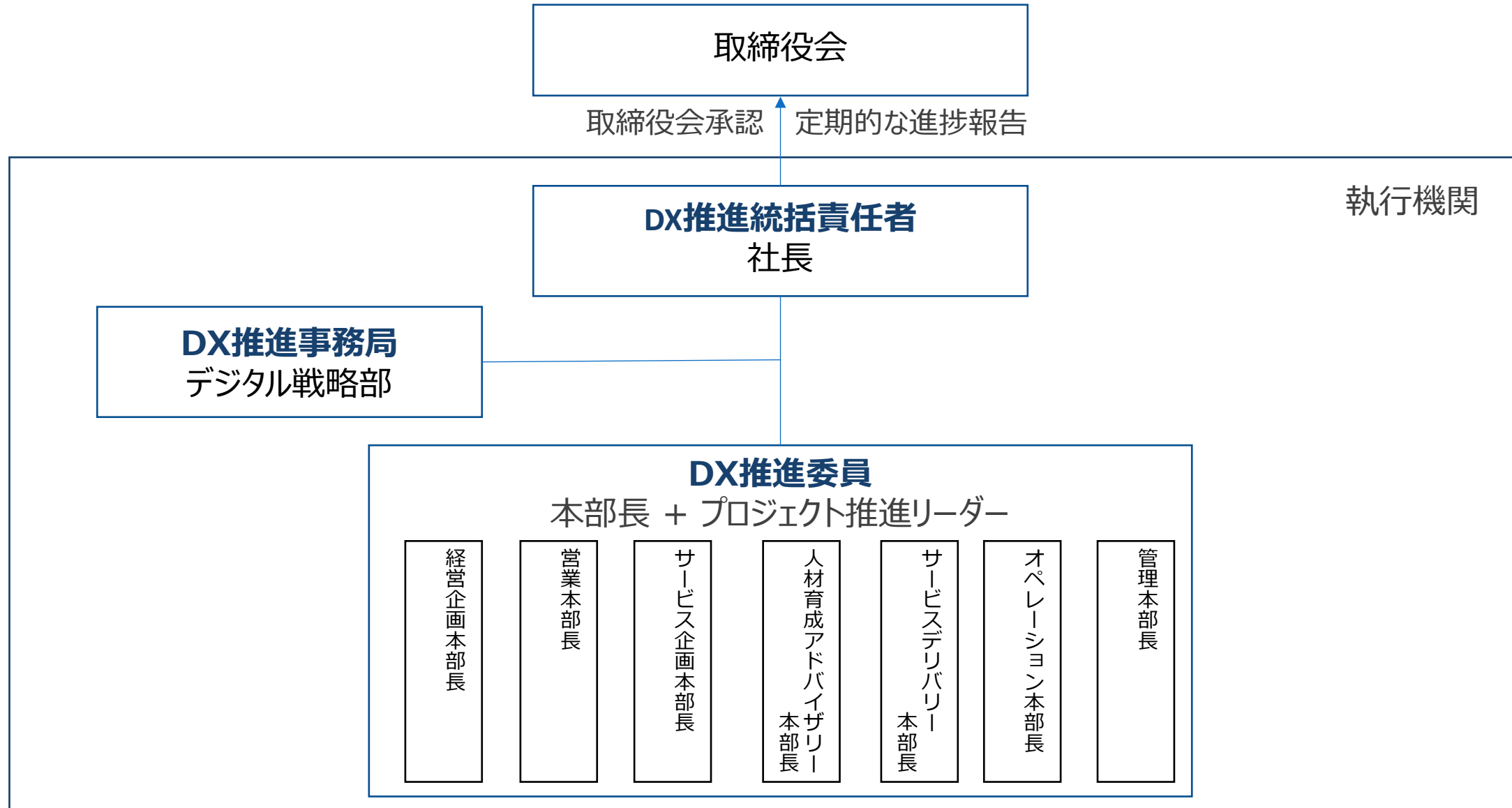


具体的なデジタル技術を用いたデータ活用方法例

【具体的なデジタル技術を用いたデータ活用方法例】

- CRMを活用し、リード獲得から成約・フォローまで営業プロセスをステージごとに定義。各ステージの進捗や活動内容（商談数、提案内容、受注確度など）を入力項目として管理し、可視化。属人的な対応を排除し、営業状況をデータに基づき把握・分析できる体制を構築する。
- WebサイトやSNS、メールマーケティングを活用し、セミナーやホワイトペーパーなどのコンテンツ提供で見込み客を獲得。取得したリードに対し、マーケティングオートメーションで育成を図る。同時に、会員制オンラインコミュニティを立ち上げ、情報交換やイベント参加を促進し、顧客との継続的な関係構築を行う。

DX戦略を推進するための体制



DX戦略の推進に向けた人材育成と環境整備

・ 社内DX人材の育成

- DXリテラシー標準に即した教育受講により、全社員のリテラシー向上
- 推進メンバーの育成
- DXツールの利用促進、ベストプラクティスの共有

・ DXを推進するための環境整備

- DXソリューションの導入：
学習管理システム、ECサイト、マーケティングオートメーション 他
- オフィスのリニューアル：
コラボレーションスペース、配信室、動画撮影室の整備 他
- テレワーク対応：
業務のオンライン化、ネットワーク環境整備、情報セキュリティ対策 他

ITシステム・デジタル技術活用環境の整備に関する方策

- **基幹システムリニューアル**
 - 顧客との接点であるECサイトリニューアル（2023年10月サービスイン）
 - 販売管理システムリニューアル（2024年度拡張）
- **研修事業向けシステムリニューアル**
 - LMS導入による研修提供デジタル化の推進（2024年度継続中）
 - 対面、オンラインに対応した研修支援システムサービス
- **デジタルマーケティング取り組み**
- **SFA,CRM積極活用による顧客課題解決および売上増**
- **データ見える化および活用**
 - 顧客管理システム（データマスター化、統合）により顧客単位での状況把握、お客様課題の見える化とともに解決案を提案できる環境
 - 受講に関するデータ蓄積、分析
- **ナレッジマネジメント**
 - 社内に散在するナレッジを共有し、活用できる環境
- **情報共有**
 - 社内ポータル（グループウェア）再構築し、情報共有活用を容易に
- **新技術の検証・導入**
 - デジタル技術を情報収集し、事業への適用を検証する体制
 - 生成AI技術の検証および導入による生産性および品質の向上を目指す（2024～2025）

DX戦略の達成状況に係る指標（2023～2024）



1. お客様のDX人材育成を支援

- 多くの人々にオープン開催でリスティング機会を提供するパブリック研修の売上：
全売上の30%
- 重点4業種（情報サービス、製造、金融、公共）の顧客深耕による3年連続ご利用企業：
220社



2. データに基づいた意思決定

- プライベート研修商談の次四半期の必要パイプライン総量を月別に設定し、レビュー：
第1月～第3月：80%～105%
- マーケティング活動によって創出されたリード（MQL）件数の成長率：
対前年度 15%成長



3. 社内の業務改革

- ナレッジマネジメントの仕組み作り(2023年)、再利用効果の追跡（2024年）
- 契約書、請求書等の書類の電子化によるコスト印紙・郵送費削減：30%削減（2024年）
- 郵送時間など電子化に伴う業務削減時間：30%削減（2024年）

ガバナンスシステム

- **戦略の推進等を図るために必要な情報発信**

- トップメッセージをWebサイトに公開
- DX推進委員会が各部門の推進状況を取りまとめ、定期的に経営会議で議論し、全社公開
- 定期的に取り締役会で進捗を報告し、重要な取り組み変更は上申して決議

- **当社の情報処理システムにおける課題の把握**

- 半期に一度課題状況を経営会議にて報告
- 「DX推進指標」による自己診断を実施
「DX推進指標自己診断フォーマット」にIPAの自己診断結果入力サイトより提出
<https://www.ipa.go.jp/digital/dx-suishin/about.html>

- **サイバーセキュリティに関する対策**

- CSIRTの設置（FYI2025 PMS事務局）
- 情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）の取得奨励 社内2名

学びがかわる、未来をかえる



株式会社 アイ・ラーニング
<https://www.i-learning.jp/>

お問合せ先
contact@i-learning.jp